子どもと家庭学習

学級で40人の子どもが、毎日同じように学んでいながら、いわゆる学習到達度が違って来るのはなぜだろう。

むろん一人ひとりの子どもには、顔や体つきに個性があるように、能力にも個性がある。正直なところ、あまり算数に向いていない子もいれば、国語がどうもという子もいるだろう。しかし、もしかしたら到達度の差はそれよりも、子どもたち一人ひとりの、家庭学習を含めた放課後の生活態度の中にそのカギが、あるのかもしれない。授業中に注意散漫な子どもや自信を失っている子どもに、教師はそれぞれ働きかける。しかし、彼らの放課後のあり方にまで、その力は及ばない。むろん教師の指導力が全く無力だと言うわけではないが、学校で過ごす時間以上に長い、彼らの放課後の時間の密度や内容にまで、立ち入ることはできないことである。

とすると、子どもと学力の問題を考えていこうとするなら、彼らが家庭でしている学習のあり方に、もっと目を向けなければならないのではなかろうか。

このレポートはそうした意味から、子どもたちの家庭学習のあり方を探ろうとして行われた、小さな調査のデータに基づいて、書かれたものである。子どもたちみんなが、少しでも高い到達を成しとげられるように願って、すべての先生方やご両親に、このデータをお届けしたい。

東京学芸大学助教授
深谷　和子
千葉県教育センター所員
高橋　美恵

1．どんな風に家庭学習をしているか

調査の概要

すでに述べたような意図で、巻末に掲げたような質問紙調査が行われた。サンプルは、表1に掲げたように、4年生から6年生までの小学生計2049名で、首都圏の公立小学校4校、近畿エリアとして奈良県と大阪府の公立小学校2校、計6校に、学校経由で調査を依頼した。調査時期は、昭和56年2月から3月であった。

表1・サンプル数

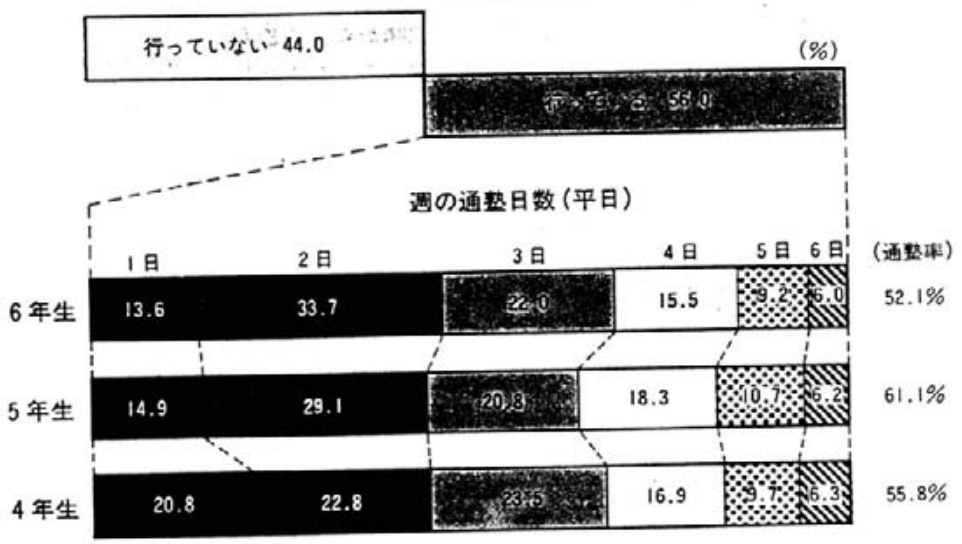
（人）

学年＼性	男子	女子	計
4年	391	364	755
5年	284	280	564
6年	375	355	730
計	1050	999	2049

学習塾通いが56%

まず初めに、「学習塾通い」から見て行こう。最近のニュースによるとお隣りの韓国では、あまりにその弊害が広がってしまったので、昨年8月から通塾が禁止されたと聞く。残念ながら今の日本では、子どもたちの放課後の生活を見て行こうとすれば、塾の問題は避け

図1・通塾の状況



て通れないだろう。

図1が示すように、学習塾に通っている子どもの数は、思ったより少なく(56.0%)、しかも学年によってそれほどの差がないのが特徴だ。4年生56%、5年生61%と、半数をやや越えた程度である。(6年生は、本来はもう少し多かったかもしれないのだが、調査時期が2月から3月だったこともあって、塾通いを打ち切った子もいたのであろう)

なお、平日の通塾回数を図中に示してある。全体として、通塾日数の学年差は少ない。週1回の者が、4年生約21%で他が13～15%だから、こころもち多いが、たとえば週4日以上という猛者は、4年生33%、5年生35%、6年生31%と、ほとんど変わりない。5年・6年で、塾通いが激化するであろうことは、ある程度予想もしたが、4年生からこうした状態が恒常化している気配には、驚くほかはない。

1日の学習時間

次に、塾のない平日に限って平均の「勉強時間量」をみたのが図2である。全体に高学年になると、長時間勉強をする者の割合はさすがに増えていて、2時間以上の者は4年生では14%でしかないのに、5年生で22%、6年生では30%に達する。しかし面白いのは勉強時間の短い者の割合で、30分以下の者は6年生33%、5年生も同じく33%、4年生で39%と、ほぼ一定である。**これでみると、学年が進むにつれて、全体がよく勉強するようになるというよりも、一部モーレツに勉強する層が分離していく**　ということなのかもしれない。

次に図3は、「塾のある日とない日の勉強時間の差」である。図が示すように、塾のある日に全く勉強しない子は40%とかなり多い反面、塾があっても2時間以上勉強する子も20%もいる。

塾のない日の勉強時間は、平均1時間前後というところだが、2時間以上の子の割合は塾があってもなくてもほぼ変わらない。つまり**塾通いの意味が、①家庭学習の肩代わりをしている子、②勉強時間の延長になる子、の2層に分かれる**とみてよいだろう。今日、子どもを学習塾へ通わせるのは、ある程度当り前のようになって来ているが、**その子どもに通塾が果している役割を、親としてはあらためて考えてみなければならないだろう。**

図2・平日の家庭学習時間

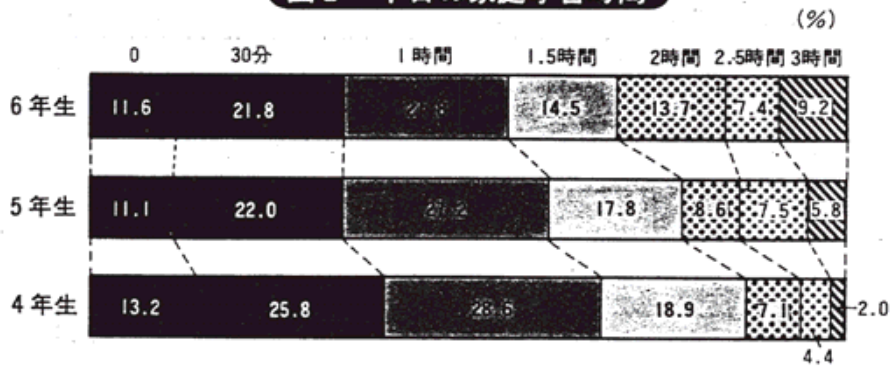
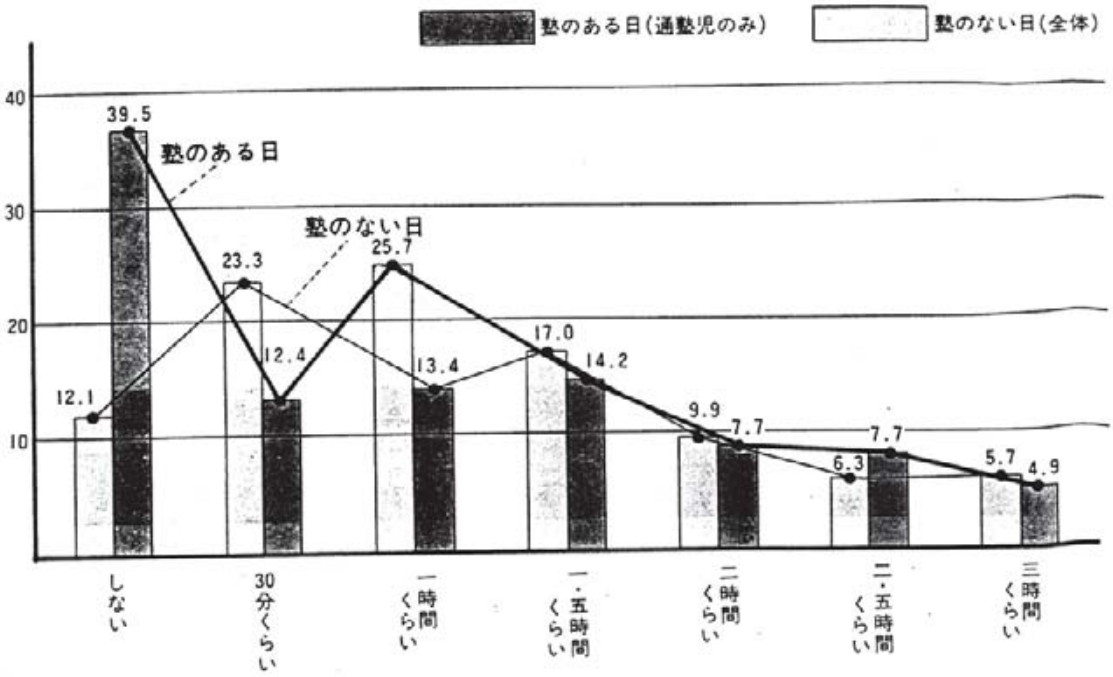


図3・塾のある日とない日の家庭学習時間の比較

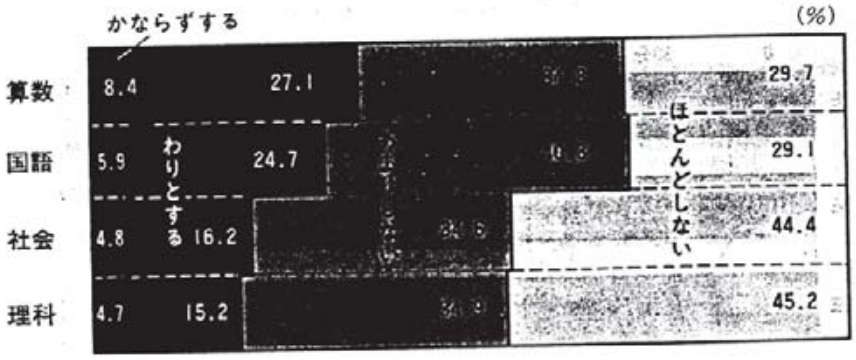


予習する子は少ない

学校での勉強の効率を高める方法のひとつは、予習にあるとも言われる。何の準備もないまま授業に臨み、わからないままに帰って来て、家庭学習の中でその穴埋めをするよりも、予習をして登校し、わからない部分を授業中によく聞きとり理解しようとする方が学習は定着するだろう。

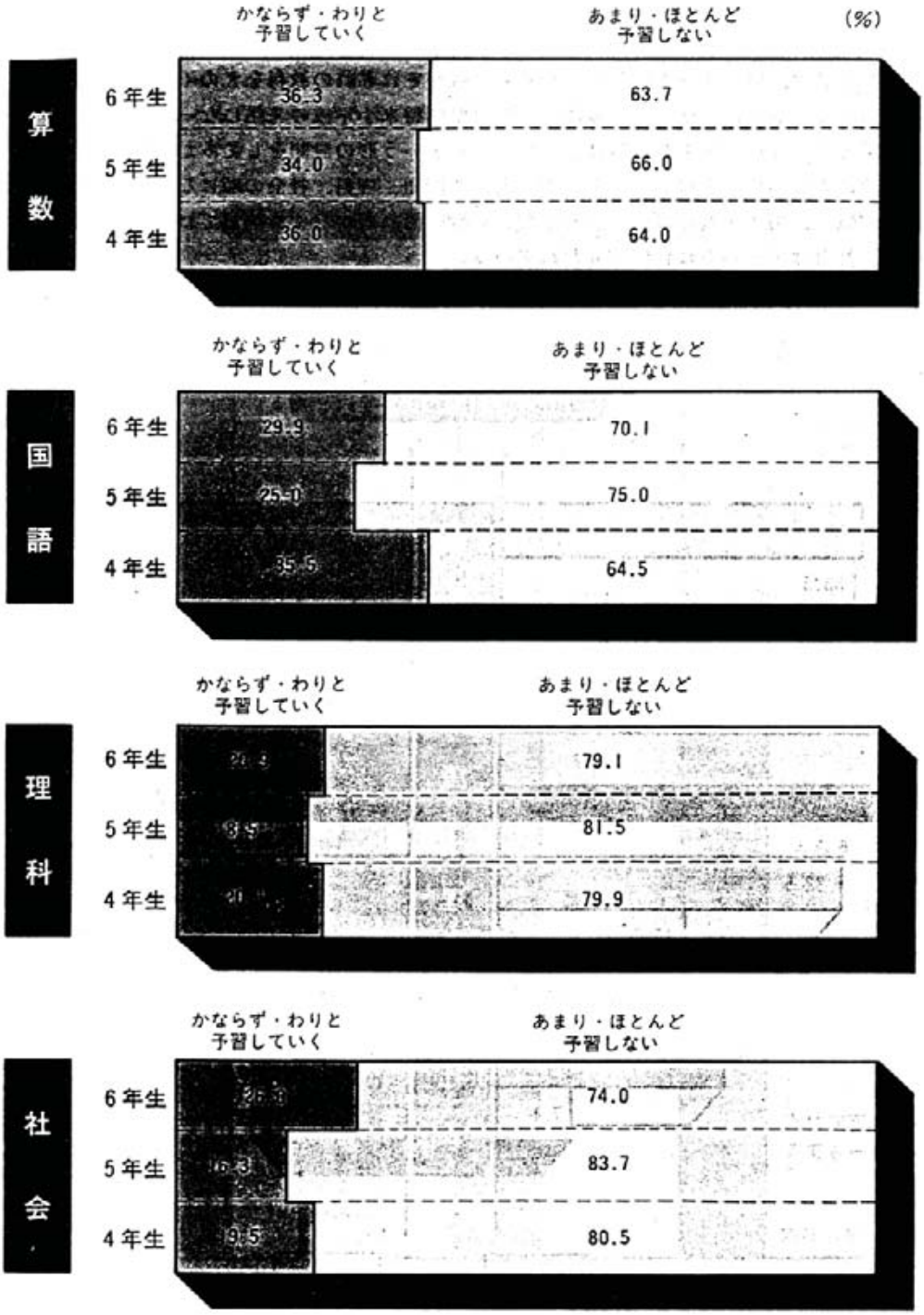
明日の予習をするかどうかを教科別にみたのが、図4図5である。いちばんよく予習されているのは算数であるようだが、それでも「必ずする」子が8%、「わりとする」子を含めても36%でしかなく、64%はあまりしていない。

図4・明日の予習



社会や理科についてはもっと少なく、しない者がほぼ80%。本来ならこうした教科の方が、より予習を必要とする教科であるように思われるのだが。

図5・明日の予習（学年別）



自信のある教科

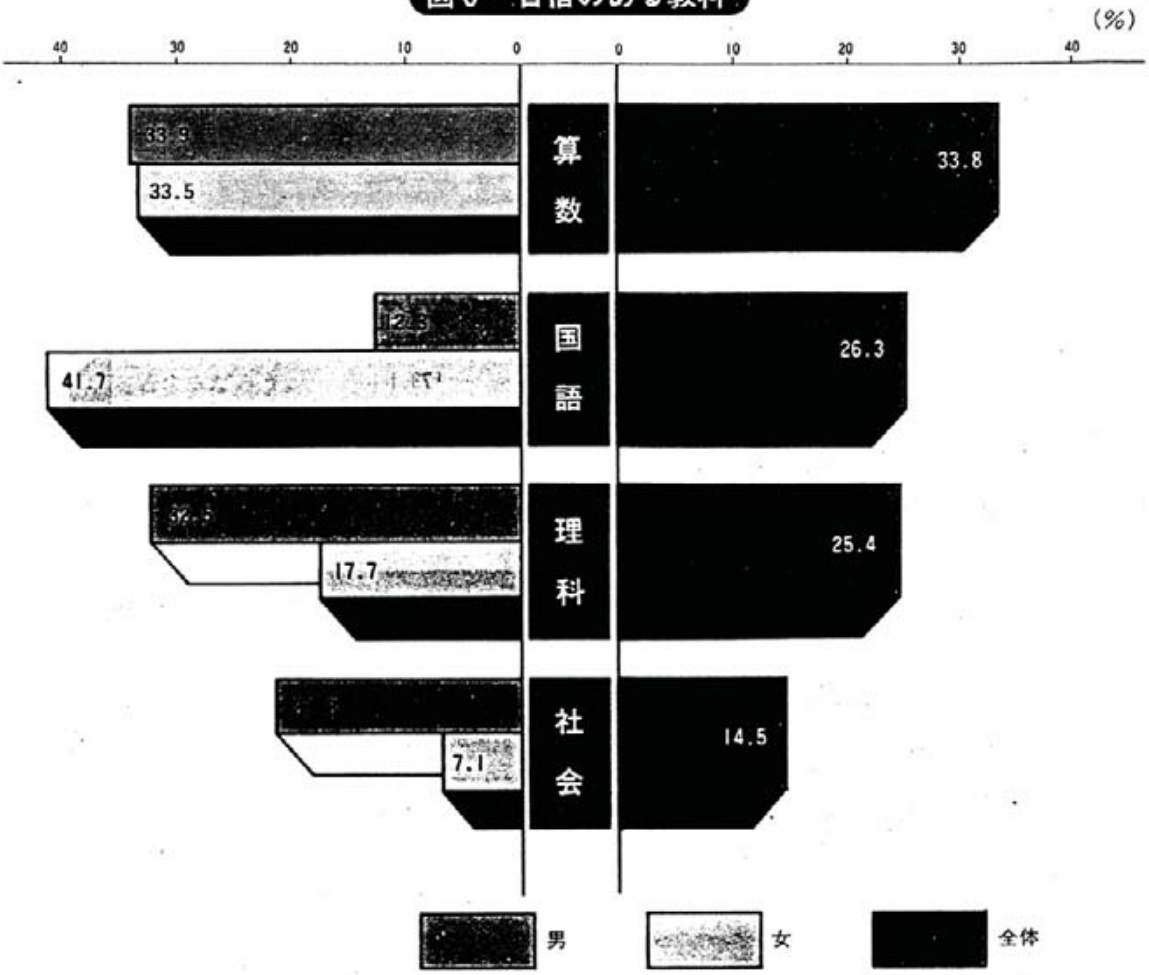
おとなの中には、数字が苦手だとか数学と聞くと思い出すだけでゾッとする、という人が多い。ところが小学生を対象とした学科の好き嫌いの調査では、算数は、しばしば好きな教科の上位に登場する。この教科は、小学生段階と高校（中学）段階とでは、著しく評価を異にするものらしい。

本調査では、好き嫌いではなく、子どもたちがそれぞれの教科をどのくらい理解していると思っているかに接近するために、「あなたが将来小学校の先生になったとして、いちばん教えるのに自信がある教科はどれですか」という形の設問をしてみた。

図6の右が示すように算数がトップ、次いで国語、理科、社会の順になっている。なお図の左側に、男子と女子の差を表わした。算数は男女差がなく、国語では圧倒的に女子、理科と社会は男子の方に自信がもたれている。

こうした関心や自信の男女差を考慮しながら、うまく授業を組み立てなければならない先生方のご苦労も、かげにあるのであろう。

図6・自信のある教科

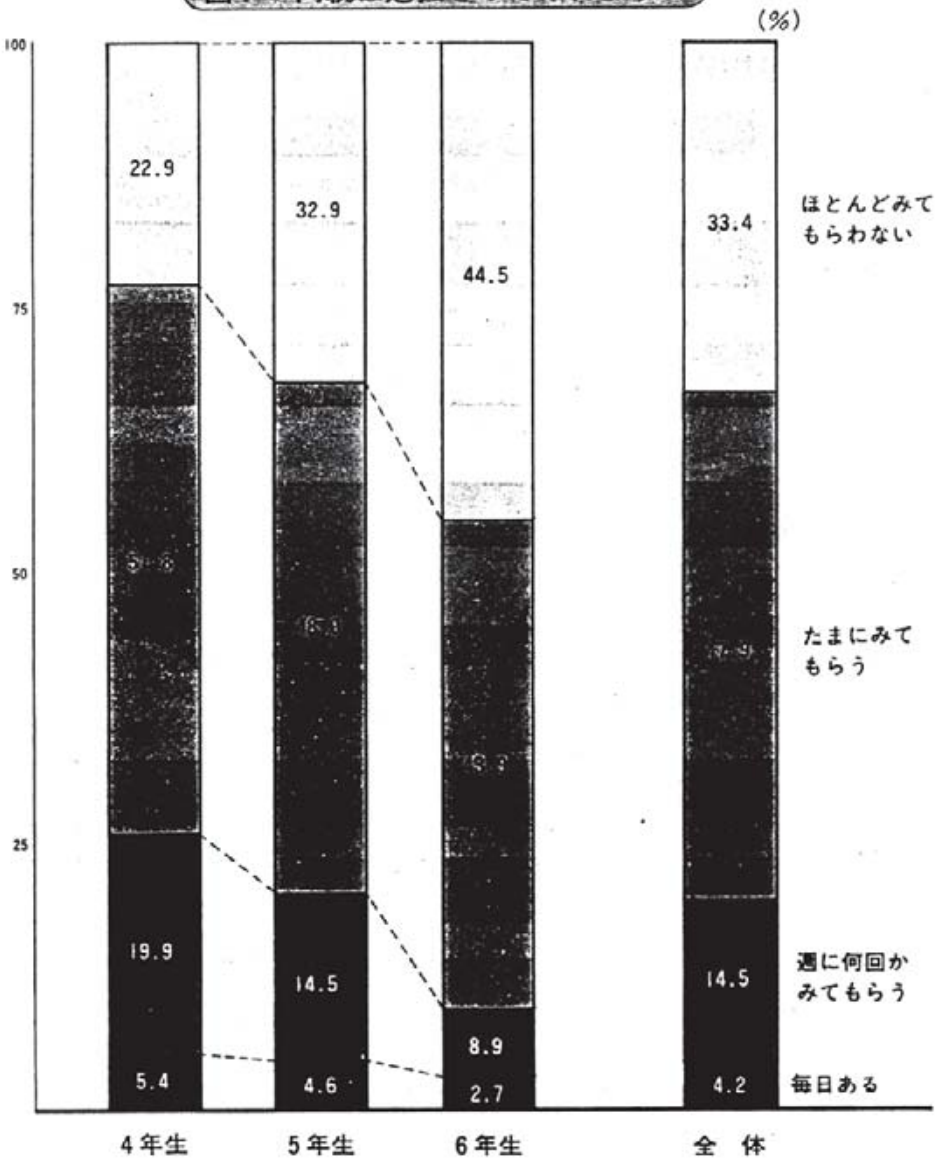


親のかかわり方

「今の親は、小学生のわが子の勉強を、いったい何年生ぐらいまでみてやることができるのか」こんな話題がわれわれの間でやりとりされることがある。図7は、親が毎日勉強を見てやる者から、ほとんど見てくれない者までの段階に分けて、その割合を示した。

勉強を毎日見る親はさすがに少なくて、4年・5年で5％、6年生で3％に過ぎない。(逆に言えばクラスに1～2人は、超教育ママのような存在があるものらしい) 週何回かを含めて、「かなり子どもの勉強のめんどうを見ている親」の割合は、4年生で25％、5年生19％、6年生12％となる。

図7 両親は勉強をみてくれますか



宿題を忘れていくか

次に子どもたちの、「学習習慣の確立」ぶりを見ることにしよう。

図8は、「宿題を忘れて行くことがありますか」とたずねた結果である。

男子と女子では、女子の方がきちょうめんであることがわかる。巻末の付表で学年別に見ると、4年生の時にはむろんのこと、6年生になっても、宿題を忘れる者はいつもほぼ一定の割合でいる(資料2参照)。「ときどき」も含めて忘れていく者の割合は、4年42%、5年47%、6年45%となっていて、これでは先生もご苦労が多いだろう。

それでは出された宿題で、もし答がわからない子どもたちは、どうしているのだろうか。きちんとわかるまで調べて登校しているのだろうか。

図9に見られるように、学年とは逆の相関があって、高学年になるに従って、わからなくてもそのままにしてしまう子が多くなる。学年が上がると、学習内容がむずかしくなるせいもあろうが、これは困ったことである。

図8・宿題を忘れていくことがありますか

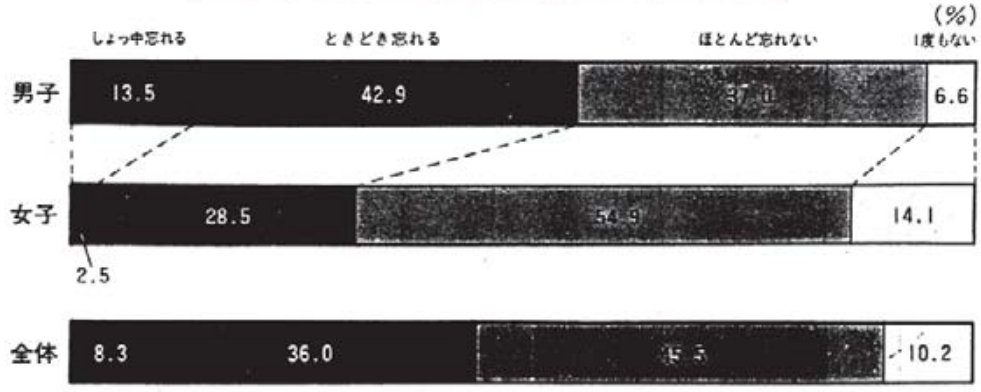
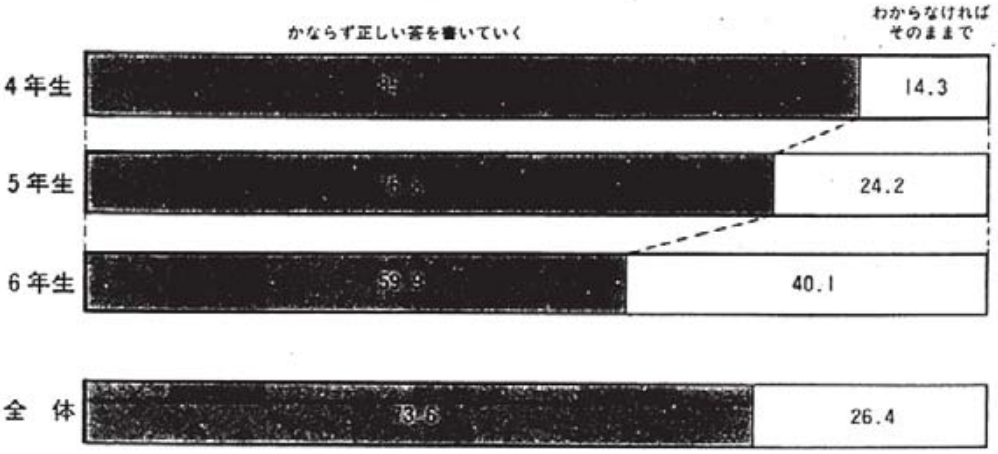


図9・宿題の答がわからない場合



ドリルをどう使っているか

宿題の次に、ドリルの使い方に移ることにしよう。すでに見てきたように、子どもたちの毎日の家庭学習に、親たちはそれほど手とり足とりしているふしは見られない。とすれば家庭学習は、ドリルを使ってするというのが、いちばんポピュラーなやり方になっているのだろう。ドリルははたして効果的に使われているだろうか。

図10は、「ドリルをした後で必ず答え合わせをしますか」とたずねた結果である。

必ずする者が52%、しない日もあるが30%、しない方が多い(やりっ放し)が18%という結果である。**これではドリルをうまく使えているのは、ほぼ半分でしかなく、あとの半分近くは、ドリルをやったという自己満足に過ぎないのではないか**という気がしてくる。

しかし学年別では、さすがに6年生になるとうまく利用できるようになる。図11が示すように、必ず答え合わせをする者の割合は、5年生の46%から6年生の60%へと、一気にはねあがる。しかしこれでもまだ数字としては不足であろう。この割合が100%に近くならなければ、形ばかりの勉強だと言ってよいのではないか。

次にこうしたドリルをやった後で、「答がわからなかった問題、答がまちがっていた問題をどうしますか」とたずねた結果が図12である。

図10・ドリルをした後で答え合わせをしますか

図11・学年とドリルの答え合わせ

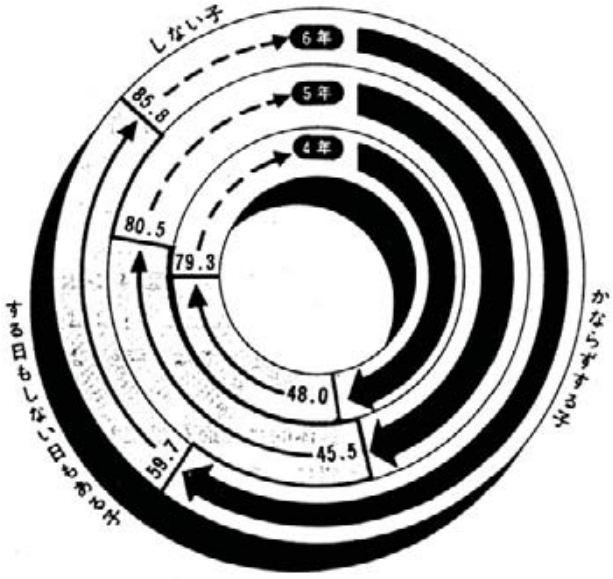
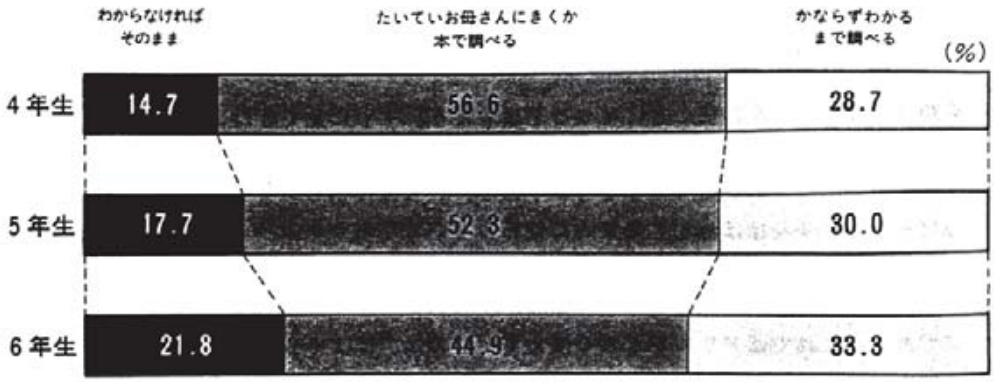


図12・ドリルのわからないところ



まず、「必ずわかるまで調べる」者が、4年生で29%、5年生30%、6年生33%と、ごくわずかであるが増えている。これはよい傾向だが、「わからなければそのまま」と答えた者も、同じように学年の上昇につれて増えていて、4年で15%、5年で18%、6年で22%にもなっている。

さきに学習時間の項で見たと同じように、学年が上がるにつれ、やる気のある層とやる気を失う層が2極化して行く傾向が、ここでも見られると言ってよいだろう。

宿題についての子どもたちの希望

さて最後に、宿題についての子どもたちの声を聞いてみることにしよう。

まず毎日の宿題についてであるが、当然と言えばそれまでかもしれないが、子どもたちは、宿題を出されることには消極的で、図13が示すように、「毎日たくさん出してほしい」という者はわずか3%。「時々出すくらいにしてほしい（宿題を出さない日もあった方がよい）」が最も多くて40%。しかし「少量ずつ毎日」という宿題ファンもいて、それが35%。逆に「宿題は出さないでほしい」という者も23%ある。学年による差は、ほとんどないのも特徴である。

次に土曜日はどうだろう。図14に掲げたように、「出さないで」が平日よりずっと増えて、38%。「必ずたくさん出して」は相変わらず少なくて4%。「ふつうの日ぐらいの量を必ず」が18%、全体としては、「平日より土曜日の宿題を少なく」が、子どもたちの声と思われる。

もう一つ、具体的に場面を設定して、宿題の問題を考えさせてみた。

「図画の時間に、あなたと2、3人が、作品を仕上げられなかったとしたら、それを宿題にしてほしいかどうか」とたずねた結果を図15に掲げた。「宿題にする」「放課後に残って」「昼休み」の3つの方法は、それぞれに支持者がいて、41%、38%、21%となっている。

また同じように、「算数のテストで、2、3人ひどく悪い点数をとった時、先生に、実力のつく宿題を出してほしいか」についてたずねた結果を図16に掲げた。図が示すように「特別の宿題を出してもらった方がよい（実力をつけるため）」という者が35%で、「よく勉強し

ておくように、口で言うだけにしてほしい」65%と、やはり、宿題は、ここでも敬遠されている。このあたりは、親の希望とは大差がありそうだ。

いずれにせよ、子どもたちの間には、多様な個性や能力のちがいがあり、教師に対する要求も十人十色である。これらに一つひとつ対応していくのは、教師としてさぞかし大変であろう。教師として、一つの方針、教育的信念を持つことはむろん大切だが、他方で、こうした一人ひとりの子どもたちの声にいつも耳を傾ける姿勢を持った、人間味のある教師であることを、望みたい気がする。

図13・平日の宿題についての希望

図14・土曜日の宿題についての希望

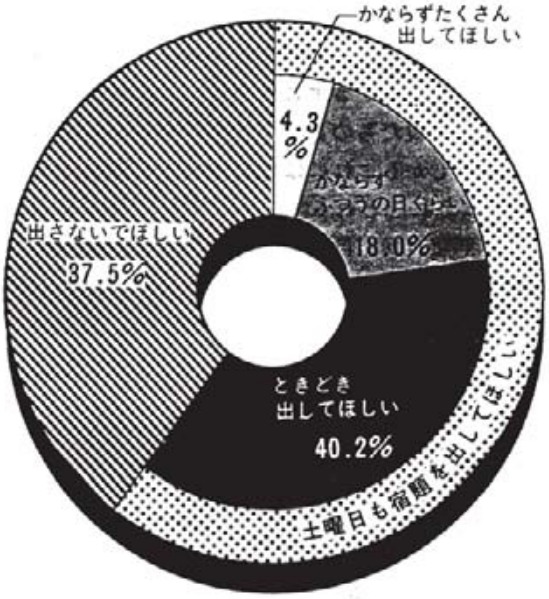


図15・図画の宿題について

図16・テストの点が悪かったとき

2．勉強についての気持ち

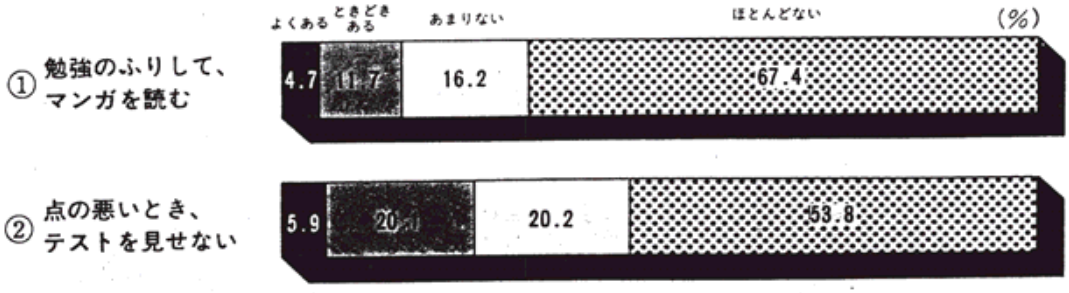
マジメな子どもたち

子どもたちの毎日の家庭学習のスタイルをざっと見たところで、次にすこし角度を変えて、子どもの心の内側から、「勉強」を探ってみることにしよう。

まず、子どもたちの毎日の学習は、どのくらいまじめに、または親の目をごまかさずに行われているのだろうか。図17は、①「勉強のふりをしてマンガを読むことがありますか」②「テストの点の悪い時は、親に見せないことがありますか」の２つの項目について、たずねた結果である。図から明らかなように、「よくある・ときどきある」をあわせても肯定率は① 16%、② 26%と少ない。この数字をみると、子どもたちがいかにまじめに親も自分をもごまかさずに勉強しているかに、少しびっくりする。現代っ子たちは、もう少し要領よく親たちの目をすり抜け、うまく息抜きしながらやっているのかと思っていた。

しかしこれにはただ手放しで喜んだり驚いたりしていてはいけない要素も含まれているように思われる。これだけマジメに取り組んでいると、失敗した時の痛手はそれだけ大きくなろう。自分はナマケた、いい加減にやった、という逃げ道が用意されていないだけに、しょっ中勉強の成果をチェックされ成功よりもむしろ何倍もの失敗経験を積み重ねることの多い学校の毎日は、子どもたちにはつらいものではなかろうか。

図17・次のようなことがありますか



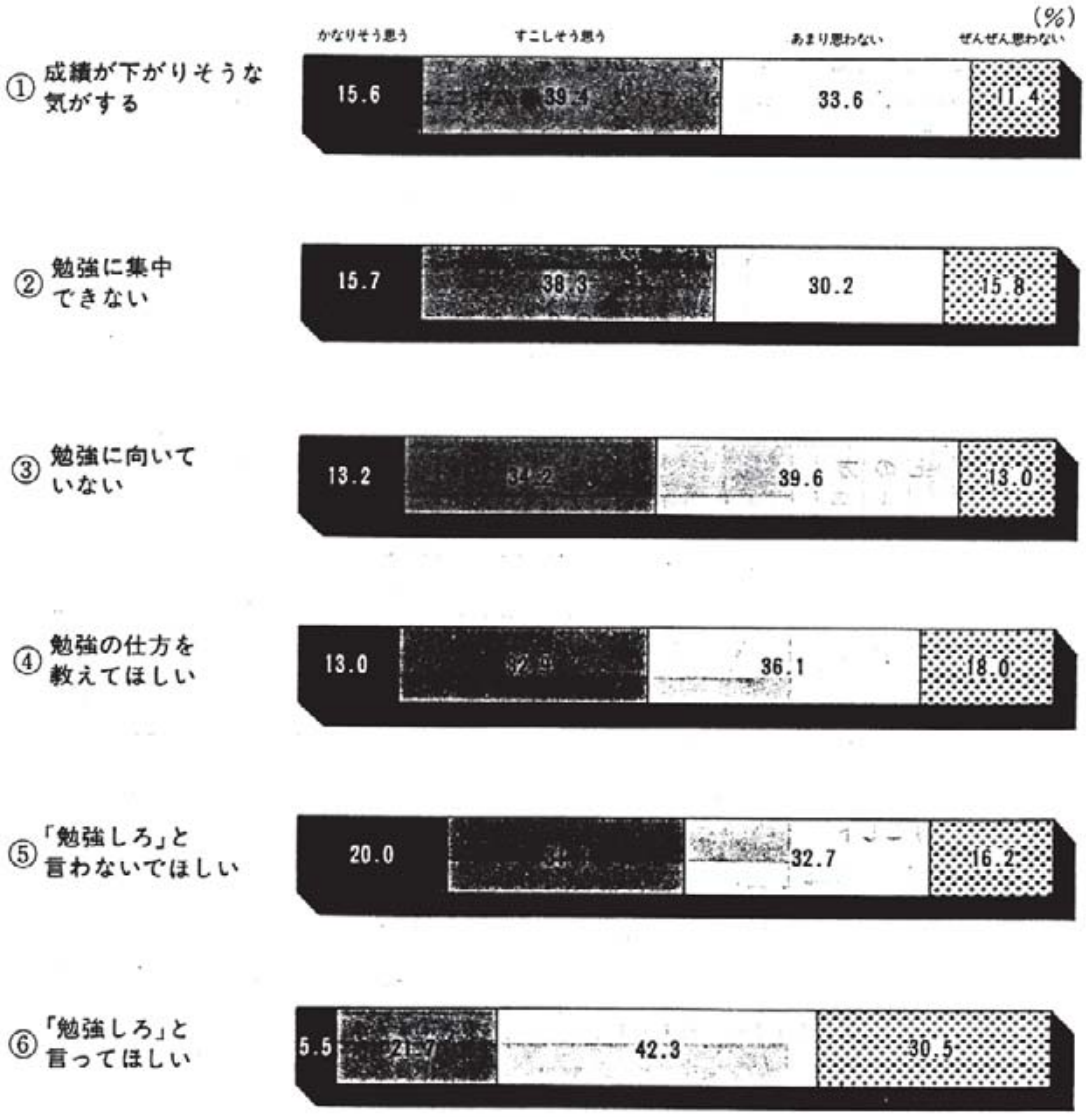
勉強している時の気持ち

次にそうした中で子どもたちがどんな気持ちで毎日机に向っているか、そのあたりに近づいてみることにしよう。図18が示すように、①「成績が下がりそうで心配」と、いつも失敗の影に不安を抱いている子（55%）を始めとして、②「勉強に集中できない」③「自分は勉強に向いていない」といった学習不適応感を訴える子どもたちが、半数近くにも達している。毎日まじめに勉強してはいるが、心のどこかで、なんとなく「いつか自分はダメになるのではないか」という不安の影もさしている。そしてその気持ちを誰かに支えてほしいとも思うのだろう。④「誰かに勉強の仕方を教えてもらいたい」と希望している子

どもは、46%にもなっている。しかしすでに見てきたように、日いちにちと両親は、わが子の勉強を見られる状態（学力）から遠ざかりつつある。そうなると多分親たちに唯一残された方法は、口で「よく勉強しなさい」とくり返すことなのであろう。しかしむろんこのやり方は、子どもの不安をかきたてるだけで、決して子どもの求めている援助にはならないだろう。その気持ちの現われが、⑤「勉強しろと言わないで欲しい」（「少し」も含めて51%）という子どもたちの声になって現われているのではなかろうか。

しかしさらにこの数字の裏には、「そう思わない(あまり・ぜんぜんを含めて)」者が、49%もいることにも気づく。⑥「勉強しろと言ってほしい」者は27%と少ないが、と言って、そのままでは不安で、また勉強をひとりだけでやっていくほどの自信はない――――それが子どもたちの本音かもしれない。まさに揺れ動く子どもたち、とでも表現できそうな心の状態を感じとることができる。

図18・勉強しているときの気持ち



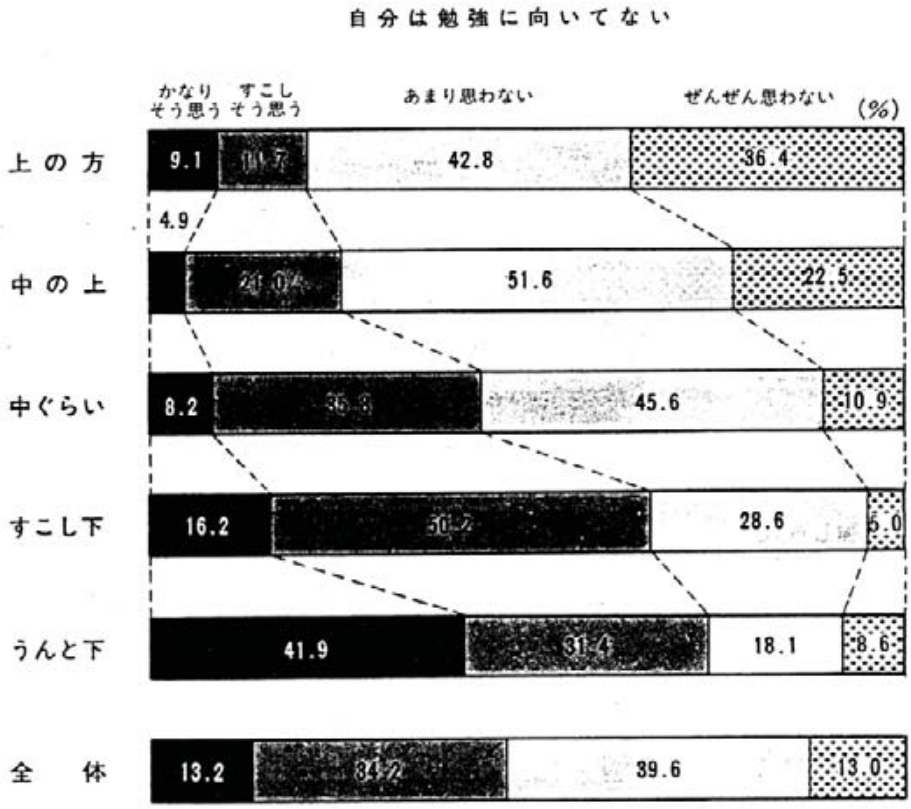
成績のよい子と悪い子

「勉強」に対する自信は、現実に「勉強したらよい成績がとれた」という成功経験に支えられ、「自分は勉強に向いていないのではないか」といった不安は、「勉強してもよい成績がとれない」という失敗経験の積み重ねで増幅されるものであろう。そこでこのような「成績のよしあし」と「勉強についての気持ち」との関連を見て行くことにしよう。

まず「自分は勉強に向いていない」と思う気持ちは、成績レベルとの関連でどの辺にひそんでいるのだろうか。

図19で明らかなように、全体として成績が下がるほど、「自分は勉強に向いていない」という気持ちを持つ子が増えている。ある意味では当然の結果とも言えるこの図の中で、やや注目をひくのは、最も成績のよいグループに、「かなりそう思う」と答えている者の割合が不自然に多くなっていることだ。最下位群での42%から、順次上へ、その割合はほぼ半分ずつになっているので、中の上群5%の次は、最上位群で2～3%であってもよさそうだ。しかしこのグループで、「かなりそう思う」と答えている者の割合は、2～3%どころか9%にもふくれ上がっている。**この層の中には、能力があって上位と言うよりも、過剰な努力の結果、オーバー・アチーバーとして息切れしかかっている者が確実にある割合で含まれていることを示すものであろう。**

図19・成績と学習不適応感(1)



このことは、他の項目についても同じように見いだされる。図20は、結果を見易くするために、５つの気持ちを表わす文章にそれぞれ「かなりそう思う」と答えた者の割合を、成績レベルとの関連で示したものである。①「成績が下がりそう」以外は、すべての項目で、最上位群の息切れの音が聞えるような気がする。

これについては、中学生対象のある調査（深谷昌志・高橋美恵、モノグラフ中学生の世界ＶＯＬ．５、「学業不振とその背景」）の中でも同様の傾向が指摘されている。表２がその結果の一部であるが、親、先生、仲間からの疎外感を「とても・かなり」感じていると答える子どもの割合は、左端「成績がトップクラスの子」と右端「ずっと下」の子どもで、ぐっと高くなっている。それに比べ、中央の「成績が中くらい」の子どもが最も心の状態としては健康な反応を示している。

成績レベルとの関連のデータでは、他に図21、22を加えておいた。

図20・成績と勉強の悩み　（%）

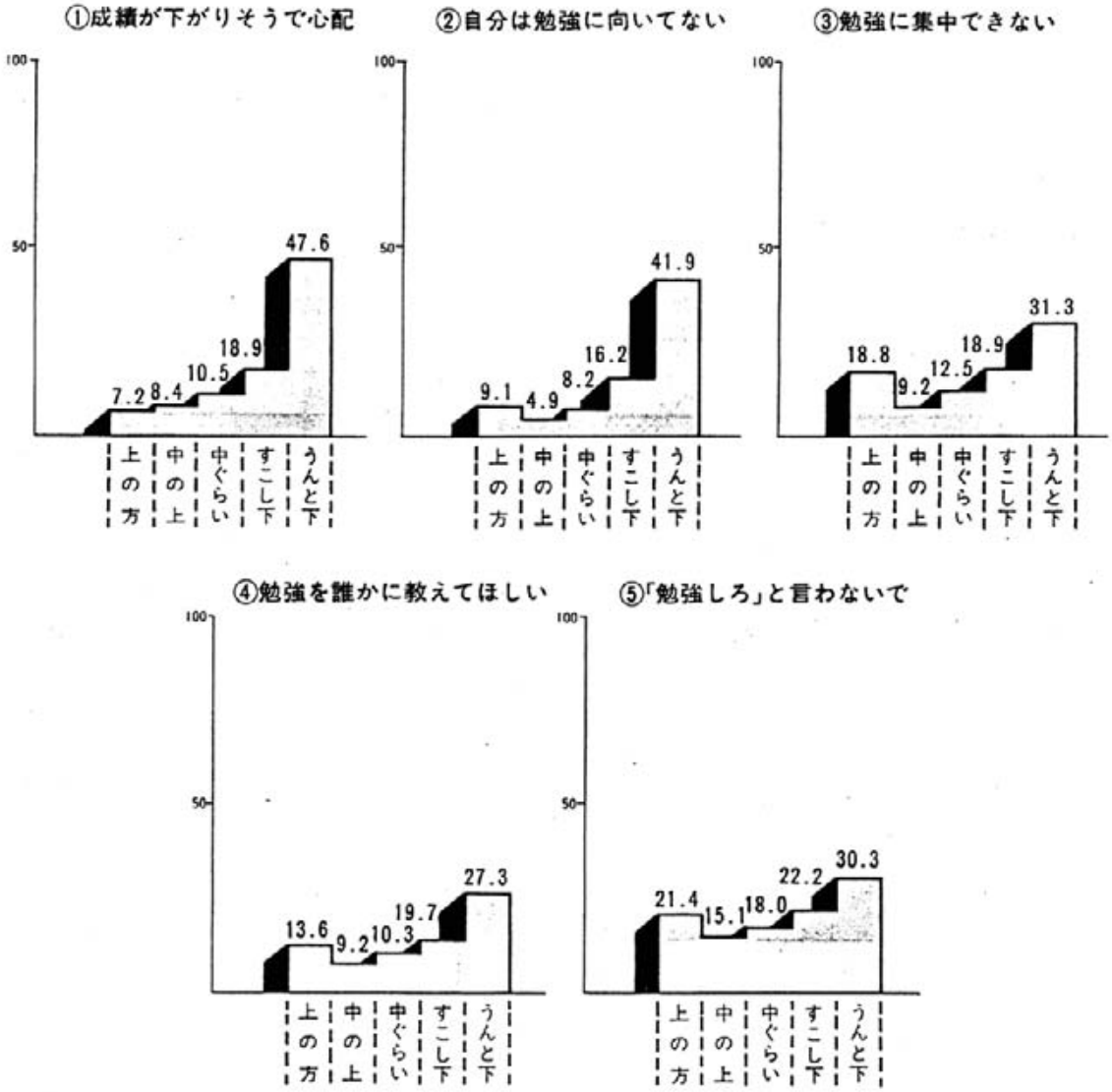
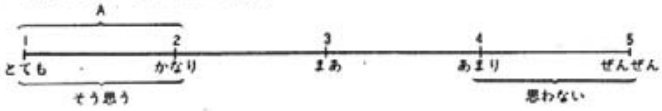


表2・疎外感と学業成績

(%)

	トップクラス	上の方	やや上	中くらい	やや下	下の方	ずっと下
親は自分のことをわかってくれない	26.0	10.5	15.6	13.9	13.9	14.6	29.5
親は無理な期待をかける	27.5	11.5	10.5	9.2	8.4	13.0	21.2
先生と話しにくい	22.0	10.6	9.4	8.5	10.1	16.7	22.7
クラスの友だちがばかにする	25.5	7.4	8.6	6.8	6.7	11.9	23.7
クラスで自分だけ仲間はずれ	20.6	4.5	6.3	6.1	6.1	7.4	19.1

表中の数値は、尺度のAの部分が全体の中で占める割合



＊モノグラフ中学生の世界vol. 5より引用

図21・成績と学習不適応感(2)

成績が下がりそうと心配

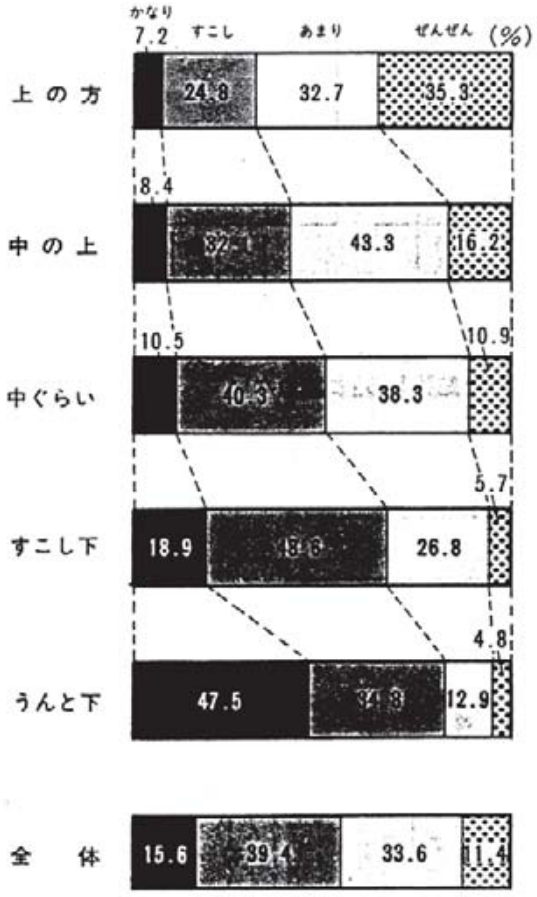
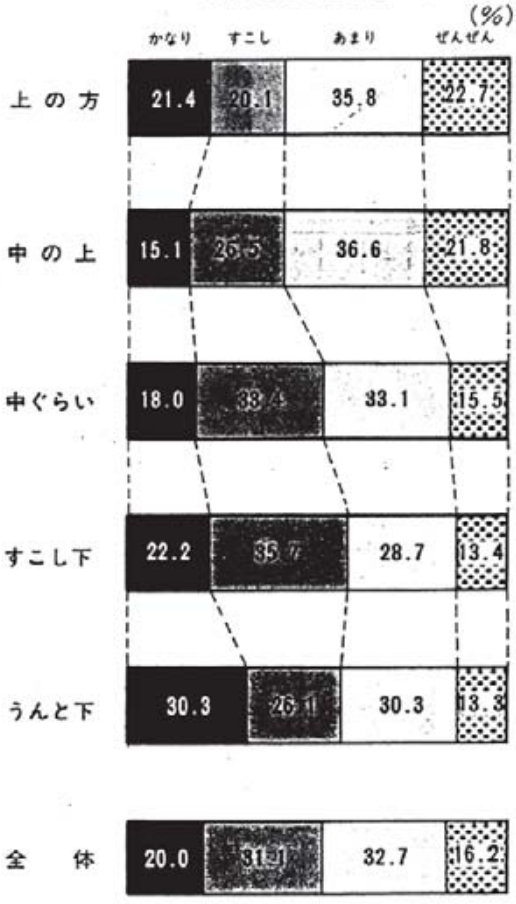


図22・成績と学習不適応感(3)

勉強しろと言わないで

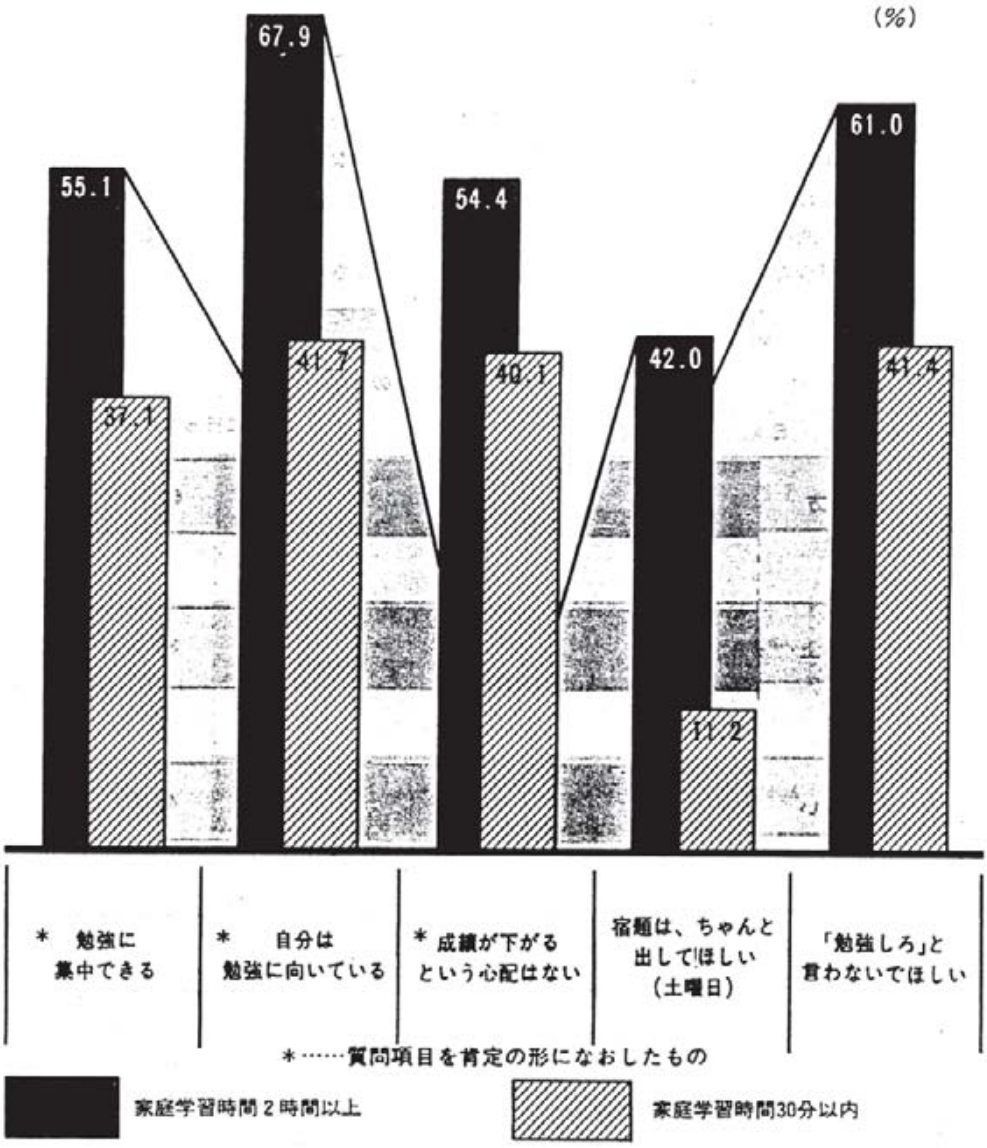


長く勉強している子とそうでない子

最後に、家庭学習時間の長い子どもと短い子どもについて、両者の気持ちを比較してみることにしたい。図23には、5つの項目について、「かなり・すこしそう思う」と否定した子どもの割合(学習不適応感については、否定率を肯定率になおしたもの)を図示してみた。影部が2時間以上家庭学習をしている子、斜線部が学習時間30分以下の子である。どの項目についても、努力している子は、勉強に対して自信を強く持っている傾向がみられる。しかしこの点の因果関係については、次の章で詳しく考察することにする。

図23・勉強についての気持ち

「かなり・すこしそう思う」の割合



3．成績を分ける条件

——できる子とできない子の家庭学習はどこが違うのか——

(1)学習塾について

どの成績層も行く学習塾

この章では、いわゆる成績のよい子と悪い子とでは、勉強のしかたが、とくに家庭学習（通塾を含む）においてどう違うのか、それを明らかにしたいと思う。

まず初めに学習塾について見ていこう。学習塾に通うと、学習態度や成績にどんな影響がもたらされるのだろうか。

まず図24は、成績別の通塾率を示したものである。図が示すように、成績と通塾率はほとんど関連が見いだされない。いちばん通塾率の高いのは中の上群で61%、いちばん低いのは下位群で50%と、その差は僅少でしかない。

塾通いは、とくにできる子がしているものでもなく、むろんできない子がしているものでもなさそうだ。逆に通塾しても、とくに成績が上がるとか、行かないと下がるというものでもなさそうである。**塾通いは今日とくに大した意味のないまま、普通化し慢性化してしまったとも言えるだろう。**

また図26に、通塾日数との関連を掲げた。全体としては、成績中の下および下位群に、やや通塾日数が少ない傾向が見いだされるが、有意差はなさそうである。

図24・成績と通塾率

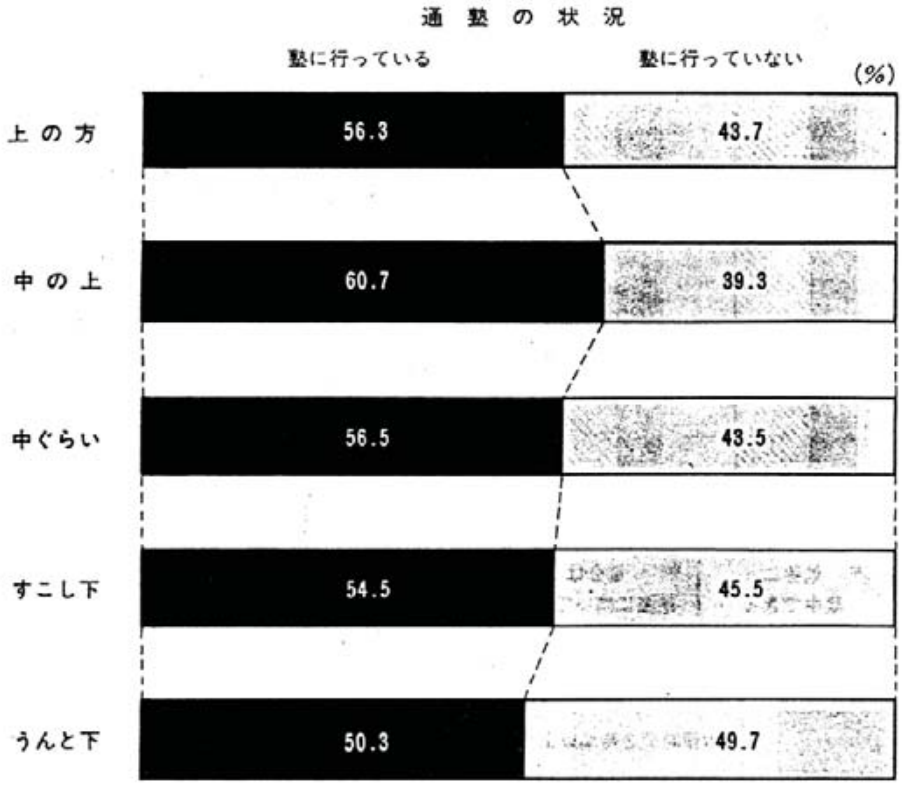


図25・通塾と成績の自己評価

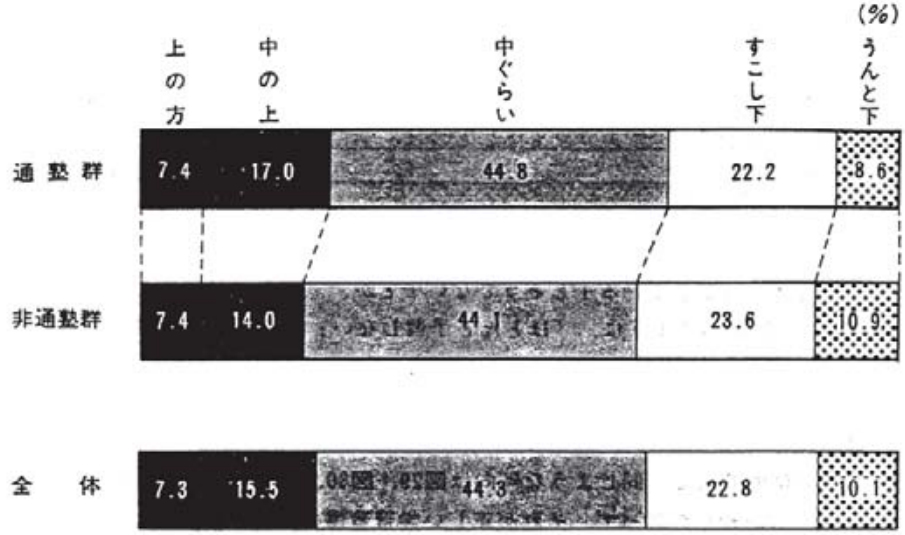
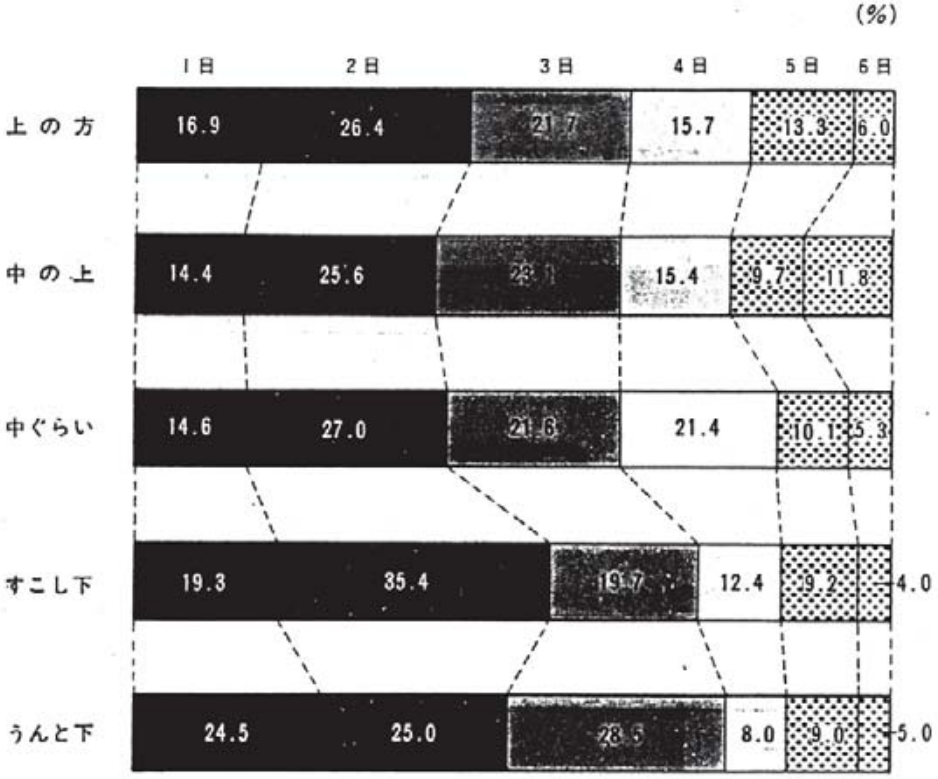


図26・成績と通塾日数（平日）



通塾と学習習慣

子どもを学習塾へやろうとする時の親たちの期待は、ひとつには学力が高められること（塾で教わる教育内容）であり、もうひとつは、学習習慣が確立するのではないか、という２点であろう。

前者についてはすでに見てきたデータからも、多少の推測ができたので、後者について見てみよう。通塾によって、望ましい学習態度や学習習慣が確立するのだろうか。

まず図27は、通塾している子とそうでない子とが、「算数の予習をして行くか」を見たものである。図が示すように、「ほとんど予習しない」者の割合は、非通塾群に34％（通塾群26％）とやや多いだけで、全体としては差がない。塾通いしているからといって、とくに予習の態度が確立しているとは言えないようである。

次は図28で、ドリルをやりっ放しにしているかどうかを見たものである。これも図27とほぼ同じ傾向である。同じような傾向は図29、図30、図31にも見られ、総じて言えば、**塾通いをさせたからと言って、それが正しい学習習慣の形成に役立つことはほとんど期待できないようだ。**

またもう一つ、子どもたちの成績下降の不安を、通塾の有無との関連でみたのが図32である。これもとくに通塾している者に不安やあせりがあるとか、逆に塾通いしていない子どもの方がそうだ、などの傾向の差はとりたてて見られない。

以上から考えてみると、塾通いといっても、その目的や塾のタイプによって違いはあろうが、全体としては**親たちが望みをつなぐほどには、学習塾通いは効果をあげていない**という気がしてくる。

図27・通塾と算数の予習

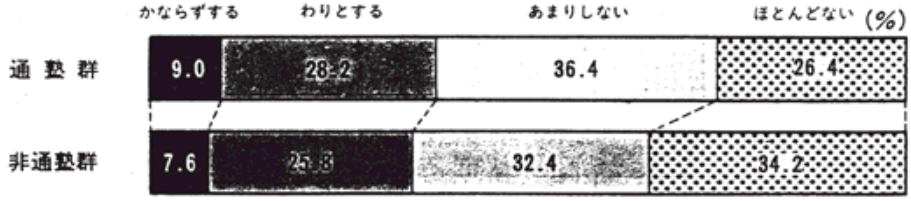


図28・通塾とドリルの答え合わせ

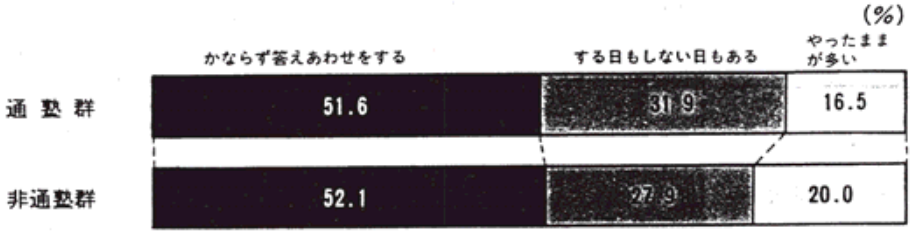


図29・通塾と勉強中マンガ読むふり

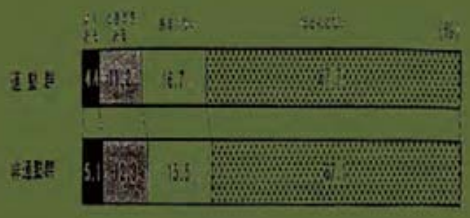


図30・通塾と宿題を忘れることがあるか

図31・通塾と宿題でわからない時の処理

図32・通塾と成績下降の不安

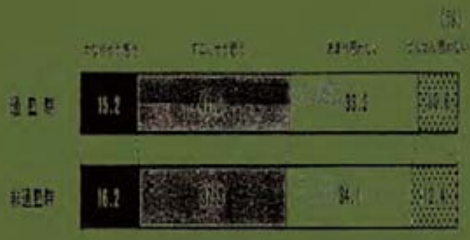


図29・通塾と勉強中マンガ読むふり

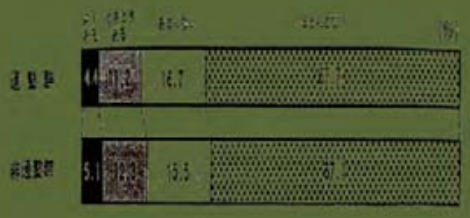


図30・通塾と宿題を忘れることがあるか

図31・通塾と宿題でわからない時の処理

図32・通塾と成績下降の不安

31

(2)成績のよい子と悪い子

はじめにも述べたように、成績のよい子と悪い子の明暗の差を分けるものは、一体何だろうか。家庭学習の方法について、この点を比較してみよう。

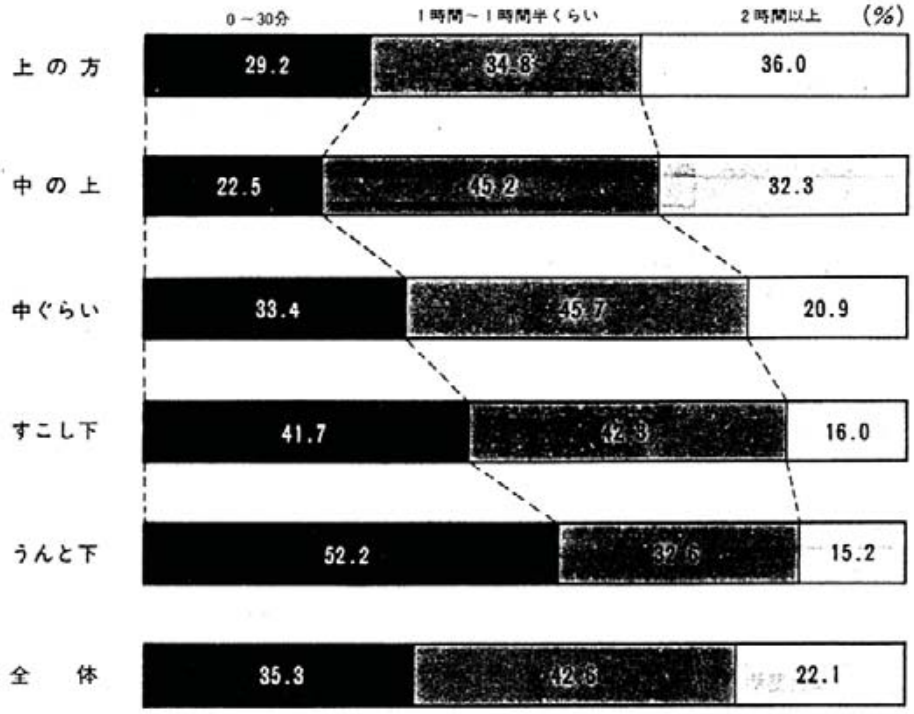
勉強時間の違い

まず図33を見てみよう。家庭学習の時間の長さと成績段階には、かなりの関連がみられる。これは塾のない日の平日の勉強時間であるが、図が示すように、上位群では2時間以上の者が36%、最下位群では15%という開きがみられる。また30分以内のほとんど勉強らしいことをしていない（多分宿題しかしない）者についてみると、上位群では29%、最下位群では、52%という大差が見られる。

むろんこれが「努力すれば、誰でも一番になれる」ということではないにせよ、やはり**成績の悪い子どもたちで、勉強時間の短かすぎる子には、もう少し指導の手を加えた方がいいのかもしれない。**

しかし逆に、2時間以上も勉強している子どもで最下位にいる者が、実に15%もいる。この子どもたちの精神衛生は多分かなり悪くて、情緒的にも不安定な面が多いと予想される。この点について、「がんばっているのだから、いいではないか」とそのまま放置せず、教師も親もきめの細かいケアが必要ではないだろうか。

図33・成績と学習時間



学習習慣の確立ぶり

次は、家庭学習の細かいやり方について見ていこう。結果を見やすくするために、成績上位の子ども（7％）と最下位の子ども（10％）をとって、両群を比較し、図34にまとめてみた。

図34から明らかなように、全体として**成績のよい子は、学習の習慣形成がきちんとできている**傾向が見られる。

たとえばドリルの答え合わせを「必ずやる」者は、図が示すように、上位群には58％もいるのに対して、下位群では、41％である。

次に、ドリルの答えがわからなかったり間違ってしまった時に、必ず正解をきちんと調べる者は、上位群61％、下位群20％と、いちばん大きな差が見出される。

また予習についても同様で、どの教科についてもそうなのだが算数に例をとると、予習をやっていく者は上位群43％に対して、下位群では16％しかない。

また宿題をやって行く状況では、ほとんど（1度も）宿題を忘れたことのない者は、上位群73％に対して、下位群では31％しかいないことがわかる。

以上をまとめてみると、成績のよしあしの分れ道は、家庭学習の習慣形成を確立するかどうかにかかっている部分が、大きいように思えてくる。むろん、チャランポランだったりだらしがなかったりしていても、成績のよい子はいるし、逆にまじめな努力家でも、成績の悪い子はいる。それは初めに述べたように、家庭学習以外に働いている要因がいくつもあることを示すのであろう。しかし、われわれが、親として、また教師としてカバーできる面、われわれの手の中にある部分を考えていくとしたら、まずこの部分すなわち正しい学習習慣を、子どもがちいさいうちにきちんと身につけさせることに、指導の手を伸ばすべきであろう。

また図35は同様に、家庭学習時間の長さとの関連を見たものである。前の図34に掲げた結果とほぼ同じような結果が見いだされる。つまり**家庭学習時間の長い子どもは、決してスローテンポだから長いのではなくて、短い子にくらべると「必ず答えあわせをし、わからない問題はトコトン調べ、明日の予習も必ずやって行く」から、長い時間勉強することになってしまう**のだろう。とすれば逆に、親や教師としては、ただ長時間勉強しろと子どもに要求するのでなく、こうしたひとつひとつの学習をきちんと積み上げさせ、それを習慣化させるように指導すべきなのであろう。**それが達成されれば結果として子どもは今までより長時間家庭学習をすることになる**のだろう。

さきに見てきたように、学習塾通いをしても、いまひとつ成績の上昇にはむすびつかない気配があった。それは塾が、ある意味では家庭学習場面よりも学校での一斉授業場面に近く、ただ知識を頭から詰め込むだけで、本来家庭での学習の特徴である個別的で自主的な学習態度や学習経験の形成に貢献しないことから来るのかもしれない。

そう考えてくるとわれわれ親や教師は、子どもの学習の援助に際して、これまで見落していた部分で、まだかなり大きく貢献できる余地をもっているのかもしれない。

図34・学習態度と成績の自己評価

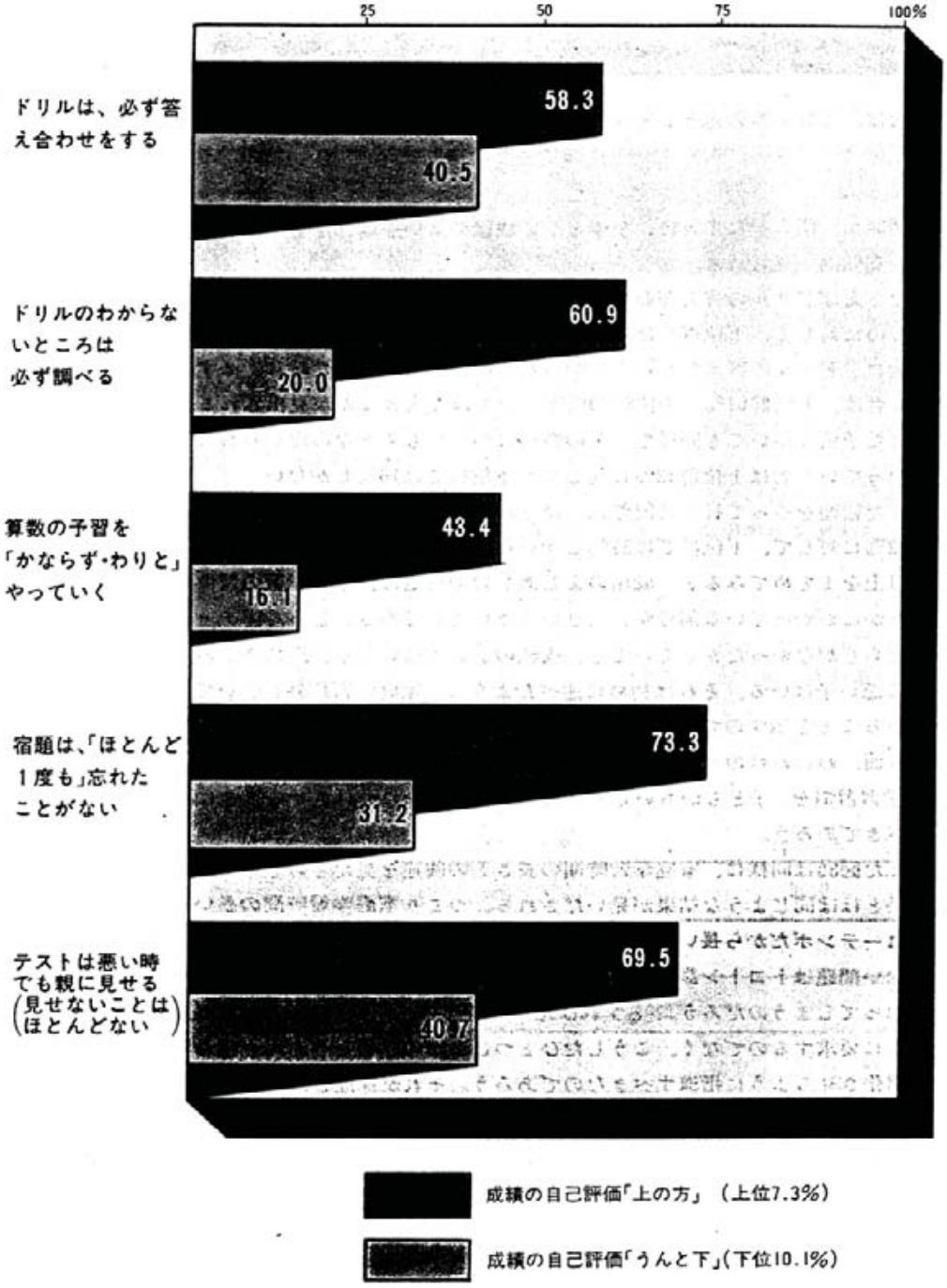
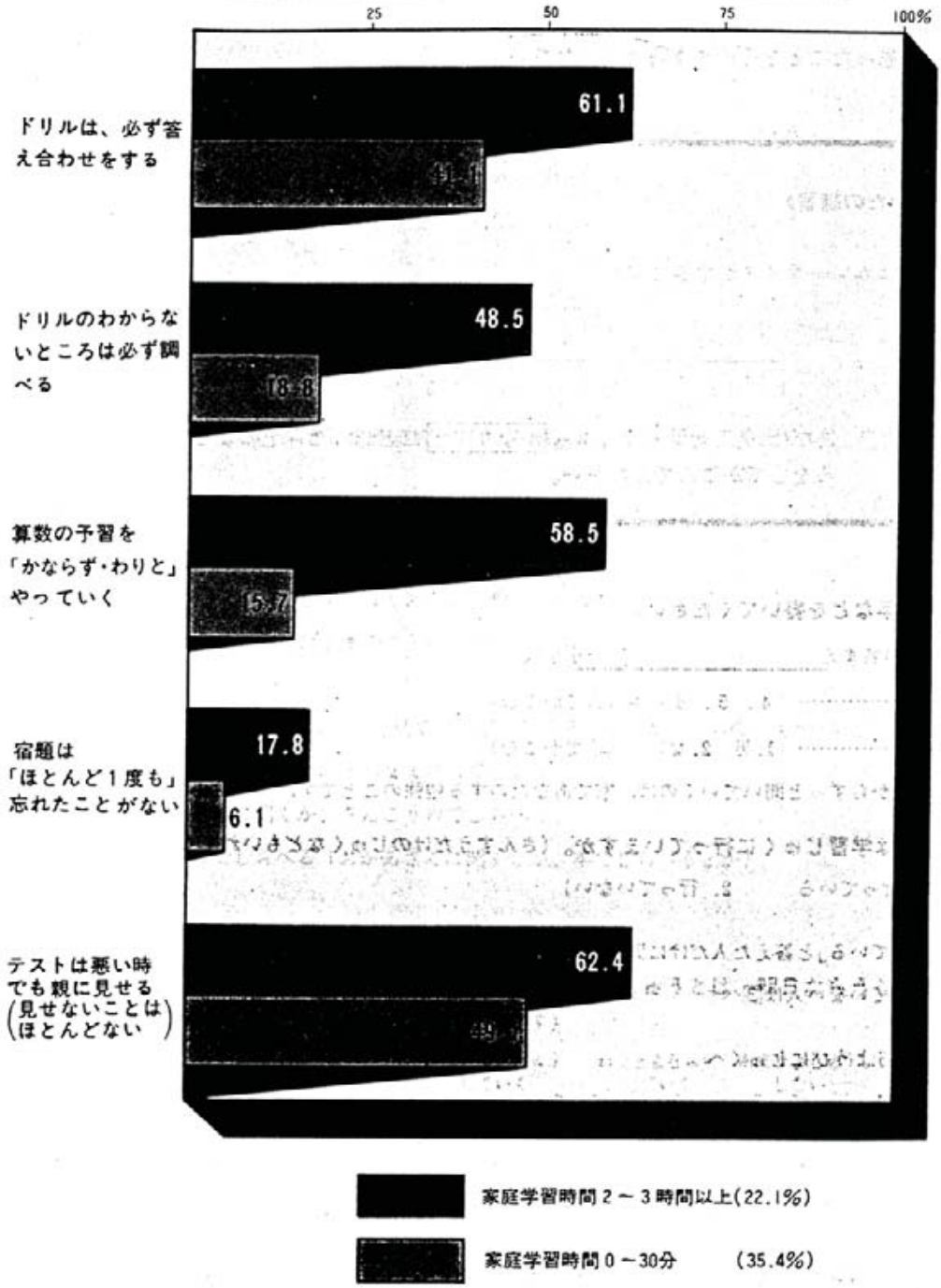


図35・家庭学習時間の長い子どもと短かい子どもの比較



● 資料1 調査票見本(家庭学習)

ちょうさのおねがい

これはテストではありません。日本の子どもたちにたくさんおねがいして、その生活をしらべるためのものです。思ったことをそのまま答えてください。

〈やりかたの練習〉

あなたはカレーライスがすきですか？

とてもすき	かなりすき	ふつう	すこしきらい	とてもきらい
1	②	3	4	5

あなたがもしカレーライスを[かなりすき]だと思ったら上のように番号のところを○でかこんでください。

1 まず学年などを書いてください。

① 学校の名まえ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿小学校

② 学年……（4，5，6）年〈○でかこむ〉

③ 男女……（1.男　2.女）　〈○でかこむ〉

〈これからずっと聞いていくのは，家であなたのする勉強のことです〉

2 あなたは学習じゅくに行っていますか。（さんすうだけのじゅくなどもいれてください）

① （1．行っている　　2．行っていない）

② 「行っている」と答えた人だけに聞きます

（行っていない人は3へ）

㋑ 日ようびにじゅくへ

（1．行っている　　2．行っていない）

㋺ 月～土の6日間のうち何日行っていますか

（0，1，2，3，4，5，6）日〈○でかこんでください〉

3 [じゅくへ行っていない日]に、あなたは家で何時間ぐらい勉強しますか。だいたいのこと（平均）でけっこうです。宿題もいれて下さい。

1．しない日の方が多い

2．30分位

3．1時間位

4．1時間半位

5．2時間位

6．2時間半位

7．3時間以上

4　では じゅくのある日 はどうですか。（じゅくに行っている人だけ答えてください）

1．じゅくの日は宿題だけで、あとは勉強しないことが多い

2．じゅくの日でも、宿題以外にもっと勉強する

→ □ 時間 □ 分位

5　あなたはドリルを持っているでしょう。(持っていない人は、6へ行ってください）ドリルをどんなふうに使っていますか。

(1)　やったところの答をあわせますか

1．やり終ったら、かならず答を見て○や×をつける

2．答あわせ(○や×をつける)をする日もあるが、やりっぱなしの日もある

3．答あわせをしないで、やったままのことが多い

(2)　わからない問題、まちがった問題(答を見ても、どうしてそうなるかわからないもの)をどうしますか。

1．すこし考えて、わからなければそのままにしてしまう

2．たいていおかあさんに聞くか、さんこう書でしらべる

3．かならずわかるまでしらべる（おかあさんに聞くとか、本でしらべるとか）

6　家で、明日ならうところのよしゅうをして行きますか。（よしゅうとは、明日ならうところを、自分で教科書を読んだり、ドリルをやって行くことです）

	かならずよしゅうしていく	わりとよしゅうしていく	あまりよしゅうしない	ほとんどよしゅうしない
(1)こくご	1	2	3	4
(2)さんすう	1	2	3	4
(3)りか	1	2	3	4
(4)しゃかい	1	2	3	4

7　あなたは、おとうさんやおかあさんに、家で勉強をみてもらうことがありますか。(宿題やドリルのわからないところを聞いて、答をおしえてもらうのではなくて、先生のように問題を出したり、やらせたり、説明してくれたりなど)

1．毎日のようにある　2．週に何日かある　3．たまにある　4．ほとんどない

8　宿題について聞きます。

(1)　宿題を忘れて行くことがありますか。

1．しょっちゅう忘れて行く

2．時どき忘れて行く

3．ほとんど忘れない

4．1度も忘れたことがない

(2)　さんすうの宿題でわからないところがあったらどうしますか。

1．おかあさんに聞くか、本でしらべるなどして、かならず正しい答を書いていく

2．すこし考えたりしてみるが、わからなければそのままにして行く

(3)　宿題をよく出す先生と、あまり出さない先生がありますが、あなたはどうしてほしいですか。

①土曜日について
- 1．かならずたくさん(ふつうの日より)出してほしい
- 2．かならず出してほしいが、ふつうの日ぐらいの量でよい
- 3．かならずではなくて、時どき出してほしい
- 4．出さないでほしい

②月曜から金曜まで
- 1．毎日たくさん出してほしい
- 2．すこしずつ毎日出してほしい
- 3．時どき出すくらいでよい
- 4．宿題は出さないでほしい

(4)　図画の時間に絵をかきましたが、あなたとあと2、3人の人が、全部できあがらなかったとします。それを仕上げるのは、学校がいいですか、宿題にしてほしいですか。

1．宿題にして、「家でやって来るように」と言われるのがよい

2．学校が終わってから、3人だけ残って「教室で仕上げてから帰るように」と言われるのがよい

3．「ひる休みにやるように」と言ってほしい

(5)　もしあなたと2、3人の人が、さんすうのテストで、ひどく点数がわるかったとします。そんなとき先生に、3人だけとくべつに宿題を出して、やってくるように言われるほうがいいですか。それとも「よく勉強しておきなさい」と言われるだけのほうがいいですか。

1．特別の宿題を出してもらった方がいい

2．「よく勉強しておきなさい」と口で言われるだけの方がよい

9　もしあなたが、しょうらい、小学校の先生 になったとします(なりたくない人も、なったとして答えてください)

(1)　いちばん教えるのに自信がないのはどれですか

1．こくご　　2．さんすう　　3．りか　　4．しゃかい

(2)　では、いちばん教えるのに自信のあるのはどれですか

1．こくご　　2．さんすう　　3．りか　　4．しゃかい

10　あなたは、次のようなことを考えたりすることがありますか。

(1)机の前にすわって、勉強するふりをしながら、そっとマンガの本を読んだりする。

よくある　ときどきある　あまりない　ほとんどない
1　2　3　4

(2)テストの点の悪いときに、家の人に、見せないことがある。

よくある　ときどきある　あまりない　ほとんどない
1　2　3　4

(3)勉強していても、いろいろと他の事を考えてしまって、集中できない。

よくある　ときどきある　あまりない　ほとんどない
1　2　3　4

(4)自分は勉強に向いていない。

かなりそう思う　すこし思う　あまり思わない　ぜんぜん思わない
1　2　3　4

(5)これから先、今より成績が下がってきそうな気がする。

かなりそう思う　すこし思う　あまり思わない　ぜんぜん思わない
1　2　3　4

(6)家でする勉強のしかたが、よくわからないので、誰かにおしえてほしい。

かなりそう思う　すこし思う　あまり思わない　ぜんぜん思わない
1　2　3　4

(7)親は、あまり勉強しろといわないでほしい。

かなりそう思う　すこし思う　あまり思わない　ぜんぜん思わない
1　2　3　4

(8)（私は意志が弱いほうなので)「勉強しなさい」と家の人から、ときどきいってほしい。

かなりそう思う　すこし思う　あまり思わない　ぜんぜん思わない
1　2　3　4

(9)あなたの成績は、クラスでどのくらいですか。

上の方　中の上　中ぐらい　ふつうよりすこし下　うんと下
1　2　3　4　5

（長い間、どうもありがとうございました。）

● 資料2　学年・性別集計表

単位　Q1…(人)　Q2～Q10…(%)

質問項目				全体	性別 男子	性別 女子	学年別 4年	学年別 5年	学年別 6年
Q1	サンプル数	学年	4年	755	391	364			
			5年	564	284	280			
			6年	730	375	355			
		性	男子	1,050					
			女子	999					
Q2	通塾状況	学習塾	1．行っている	56.0	54.2	57.9	55.8	61.1	52.1
			2．行っていない	44.0	45.8	42.1	44.2	38.9	47.9
		日曜日	1．行っている	8.8	8.1	9.6	6.5	12.4	7.9
			2．行っていない	91.2	91.9	90.4	93.5	87.6	92.1
		平日の通塾日数	1．6日間のうち 1日	16.6	15.8	17.5	20.8	14.9	13.6
			2．〃 2日	28.3	29.7	26.8	22.8	29.1	33.7
			3．〃 3日	22.2	24.8	19.5	23.5	20.8	22.0
			4．〃 4日	16.9	15.6	18.2	16.9	18.3	15.5
			5．〃 5日	9.8	8.7	11.0	9.7	10.7	9.2
			6．〃 6日	6.2	5.4	7.0	6.3	6.2	6.0
Q3	家庭学習の時間	塾に行っていない日	1．しない日の方が多い	12.1	14.8	9.1	13.2	11.1	11.6
			2．30分位	23.3	23.6	23.0	25.8	22.0	21.8
			3．1時間位	25.7	25.0	26.4	28.6	27.2	21.8
			4．1時間半位	17.0	16.4	17.7	18.9	17.8	14.5
			5．2時間位	9.9	10.1	9.7	7.1	8.6	13.7
			6．2時間半位	6.3	5.1	7.7	4.4	7.5	7.4
			7．3時間以上	5.7	5.0	6.4	2.0	5.8	9.2
Q4	家庭学習の時間	塾のある日(通塾児のみ)	1．宿題以外はしない	39.7	39.0	40.3	37.2	32.8	48.8
			2．1～30分	12.4	12.7	12.1	17.5	10.1	8.7
			3．31～60分	13.4	12.9	13.5	12.6	15.7	11.8
			4．61～90分	14.2	14.9	12.8	12.8	17.7	12.1
			5．91～120分	7.7	8.2	7.5	8.7	7.8	6.6
			6．121～180分	7.7	6.6	8.9	6.8	10.8	6.0
			7．181分以上	4.9	5.7	4.9	4.4	5.1	6.0
Q5	わからないもの	答え合わせ	1．かならず答を見て○や×をつける	51.8	47.0	56.7	48.0	45.5	59.7
			2．答あわせをする日もあるが、やりっぱなしの日もある	30.3	31.7	28.9	31.3	35.0	26.1
			3．答あわせをしないで、やったままのことが多い	17.9	21.3	14.4	20.7	19.5	14.2
		わからないもの	1．すこし考えて、わからなければそのままにする	18.2	20.5	15.7	14.7	17.7	21.8
			2．たいていおかあさんに聞くか、参考書でしらべる	51.0	49.0	53.3	56.6	52.3	44.9
			3．かならずわかるまでしらべる	30.8	30.5	31.0	28.7	30.0	33.3
Q6	予習をするか	国語	1．かならず予習していく	5.9	4.8	7.1	6.9	4.5	6.0
			2．わりと 〃	24.7	21.2	28.4	28.6	20.5	23.9
			3．あまり予習しない	40.3	38.8	41.9	37.5	42.5	41.5
			4．ほとんど 〃	29.1	35.2	22.6	27.0	32.5	28.6
		算数	1．かならず予習していく	8.4	8.3	8.5	8.6	7.4	9.0
			2．わりと 〃	27.1	25.0	29.4	27.4	26.6	27.3

質問項目				全体	性別		学年別		
					男子	女子	4年	5年	6年
Q6	予習をするか	算数	3．あまり予習しない	34.8	32.8	36.8	33.2	35.4	35.7
			4．ほとんど予習しない	29.7	33.9	25.3	30.8	30.6	28.0
		理科	1．かならず予習していく	4.7	5.6	3.6	4.8	5.0	4.3
			2．わりと　〃	15.2	16.3	14.0	15.3	13.5	16.6
			3．あまり予習しない	34.9	33.8	36.0	33.4	35.3	36.1
			4．ほとんど　〃	45.2	44.3	46.4	46.5	46.2	43.0
		社会	1．かならず予習していく	4.8	6.1	3.4	3.9	3.2	6.9
			2．わりと　〃	16.2	16.3	16.0	15.6	13.1	19.1
			3．あまり予習しない	34.6	33.5	35.8	32.6	34.2	37.0
			4．ほとんど　〃	44.4	44.1	44.8	47.9	49.5	37.0
Q7	父母の関与		1．毎日のようにある	4.2	5.2	3.1	5.4	4.6	2.7
			2．週に何日かある	14.5	14.9	14.0	19.9	14.5	8.9
			3．たまにある	47.9	46.5	49.5	51.8	48.0	43.9
			4．ほとんどない	33.4	33.1	33.4	22.9	32.9	44.5
Q8	宿題について	忘れること	1．しょっちゅう忘れて行く	8.3	13.5	2.5	6.9	8.4	9.5
			2．時どき忘れて行く	36.0	42.9	28.5	34.7	38.1	35.5
			3．ほとんど忘れない	45.5	37.0	54.9	44.8	45.0	47.0
			4．1度も忘れたことがない	10.2	6.6	14.1	13.6	8.5	8.0
		算数の不明部分	1．かならず正しい答を書いていく	73.6	72.4	75.0	85.7	75.8	59.9
			2．わからなければそのままにしていく	26.4	27.6	25.0	14.3	24.2	40.1
		土曜日の宿題	1．かならずたくさん(ふつうの日より)出してほしい	4.3	5.3	3.2	3.9	5.0	4.2
			2．かならず出してほしいが、ふつうの日ぐらいの量	18.0	17.2	18.9	16.7	19.7	18.1
			3．かならずでなく、時々出してほしい	40.2	34.8	45.9	41.9	35.7	41.8
			4．出さないでほしい	37.5	42.6	32.0	37.5	39.6	35.9
		学期末・長期休暇の宿題	1．毎日たくさん出してほしい	2.5	3.6	1.2	2.8	2.9	1.8
			2．すこしずつ毎日出してほしい	34.8	31.8	38.1	35.5	31.1	37.0
			3．時どき出すくらいでよい	40.0	37.0	43.3	39.2	40.2	40.7
			4．宿題は出さないでほしい	22.7	27.7	17.4	22.5	25.8	20.5
		図画の宿題	1．宿題にした方がよい	41.2	38.6	43.9	37.3	43.4	43.3
			2．放課後、残ってやっていく方がよい	37.8	40.4	35.0	38.0	34.1	40.5
			3．昼休みにやる方がよい	21.0	21.0	21.1	24.7	22.5	16.2
		勉強のあり方	1．特別の宿題を出してもらった方がよい	35.3	30.0	41.0	38.5	32.5	34.3
			2．「勉強しておくように」と口で言われるだけの方がよい	64.7	70.0	59.0	61.5	67.5	65.7
Q9	教えること自信	一番ある教科	1．国語	26.4	39.0	12.8	26.2	29.8	23.7
			2．算数	27.1	26.2	28.1	25.4	25.1	30.5
			3．理科	16.9	14.0	20.1	16.7	15.8	18.0
			4．社会	29.6	20.8	39.0	31.7	29.1	27.8
		一番ある教科	1．国語	26.3	12.3	41.7	28.3	23.5	26.5
			2．算数	33.8	33.9	33.5	34.2	35.6	31.8
			3．理科	25.4	32.5	17.7	25.5	28.0	23.3
			4．社会	14.5	21.3	7.1	12.0	12.9	18.4

	質問項目		全体	性別		学年別		
				男子	女子	4年	5年	6年
Q10	勉強のようすについてどのようにしているか	勉強のふりをして マンガを読む	1．よくある	4.7	6.7	2.6	3.8	5.2	5.3
			2．ときどきある	11.7	12.9	10.4	8.0	14.5	13.3
			3．あまりない	16.2	17.1	15.2	12.0	17.2	19.5
			4．ほとんどない	67.4	63.3	71.8	76.2	63.1	61.9
		テストを見せない 点の悪いとき	1．よくある	5.9	7.1	4.7	4.7	4.6	8.2
			2．ときどきある	20.1	21.9	18.1	18.8	22.9	19.2
			3．あまりない	20.2	20.3	20.1	17.9	21.3	21.5
			4．ほとんどない	53.8	50.7	57.1	58.6	51.2	51.1
		勉強に集中できない	1．よくある	15.7	18.2	12.9	14.5	15.4	17.1
			2．ときどきある	38.4	40.6	36.0	33.5	39.2	42.7
			3．あまりない	30.2	27.3	33.3	33.9	29.5	26.9
			4．ほとんどない	15.8	13.9	17.8	18.1	15.9	13.3
		勉強に向いていない	1．かなりそう思う	13.2	14.6	11.7	14.2	12.6	12.7
			2．すこし思う	34.2	33.1	35.5	34.0	31.3	36.8
			3．あまり思わない	39.6	38.6	40.6	38.6	42.5	38.2
			4．ぜんぜん思わない	13.0	13.7	12.2	13.2	13.6	12.3
		成績が下がりそう	1．かなりそう思う	15.6	17.0	14.1	17.5	12.7	16.1
			2．すこし思う	39.4	36.1	43.0	37.1	39.8	41.5
			3．あまり思わない	33.6	33.2	34.0	31.9	36.8	32.7
			4．ぜんぜん思わない	11.4	13.7	8.9	13.5	10.8	9.7
		勉強の仕方を教えてほしい	1．かなりそう思う	13.0	13.0	13.0	13.0	14.3	12.0
			2．すこし思う	32.9	32.8	33.1	30.5	33.4	35.0
			3．あまり思わない	36.1	36.0	36.2	37.7	32.8	37.1
			4．ぜんぜん思わない	18.0	18.2	17.7	18.8	19.5	15.9
		勉強するとしかられる	1．かなりそう思う	20.0	23.8	15.9	20.5	20.9	18.9
			2．すこし思う	31.1	30.4	32.0	29.5	33.3	31.2
			3．あまり思わない	32.6	31.7	33.6	31.7	32.1	33.8
			4．ぜんぜん思わない	16.2	14.1	18.5	18.3	13.7	16.1
		勉強しないと欲しいものが買えない	1．かなりそう思う	5.5	6.3	4.6	6.5	4.7	5.1
			2．すこし思う	21.7	23.0	20.3	23.5	21.6	20.0
			3．あまり思わない	42.3	39.0	45.9	39.9	42.1	44.8
			4．ぜんぜん思わない	30.5	31.7	29.2	30.1	31.6	30.1
		成績の自己評価	1．クラスで上の方	7.3	10.5	3.9	7.2	9.8	5.5
			2．クラスで中の上	15.5	16.4	14.5	14.7	14.2	17.4
			3．クラスで中ぐらい	44.3	40.2	48.8	45.5	45.4	42.2
			4．クラスでふつうよりすこし下	22.8	22.8	22.8	22.5	23.3	22.7
			5．クラスでうんと下	10.1	10.1	10.0	10.1	7.3	12.2